

2019年4月22日

## パルシステム東京様「平和カンパ 2018年度 年次活動報告書」

昨年に引き続き、パルシステム東京様の平和カンパで、タイ・ミャンマー(ビルマ)国境沿いにあるメラ難民キャンプ第2図書館、第5図書館での教育・文化事業をご支援頂きました。難民に寄り添うコミュニティ図書館へのご支援を、誠にありがとうございました。

### ●事業概要●

事業対象地：タイ国境 7カ所のミャンマー(ビルマ)難民キャンプ

事業名：ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業

対象者：2018年度図書館利用者 延べ16,794人(第2図書館) 延べ21,241人(第5図書館)



### ●難民キャンプを取り巻く現状●



<メラ難民キャンプの様子>

タイ国境にある9カ所のミャンマー(ビルマ)難民キャンプには、現在約9万7千人が暮らしています。2012年のミャンマー政府とカレン民族同盟との間で行われた停戦合意以降、難民の帰還に向けた動きが始まっています。

2016年にタイ政府・ミャンマー政府の合意の下で、初めての帰還プログラムが行われ、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の支援の下、71人が帰還しました。その後、第2陣として、2018年に93人が、今年2月に第3陣と第4陣として合計565名がミャンマー本国に帰還しました。

こうした動きがある一方、難民キャンプ内への支援は年々減少し、国際NGOの事業縮小、事業撤退が続いています。2018年に食糧配給など多くの支援を提供している国際NGOの事情縮小が決まり、2019年から難民キャンプ委員会の運営支援を削減し、保育所への昼食提供と生計向上事業が終了することが伝えられました。これを受け、各キャンプ事務所では人員削減を行うなど対応を取っており、キャンプ内の運営管理、安全管理が不安視されています。

## ●事業目標と実施した活動●

事業目標
カレン難民委員会教育部会との協働により、コミュニティ図書館活動を通して、難民キャンプの住民が将来の選択をするための知識・技術と帰還に関する情報を習得する。
活動内容
<p>メラ難民キャンプはタイ国境にある9カ所の難民キャンプの中で最も規模が大きく、2018年12月時点で35,666人が生活をしています。</p> <p>①コミュニティ図書館活動</p> <p>図書館では、図書の貸し出しや図書館員による読み聞かせ、歌、ゲーム、塗り絵、折り紙など様々な活動を実施しています。また、大人の情報収集のために、新聞、雑誌、学習参考書、小説などを図書館に配架しました。</p> <p>②情報提供活動</p> <p>図書館の前には、情報掲示板を設置しており、ミャンマー国内のニュースや新着図書の情報などを掲示し、情報提供をしました。第5図書館には、2台のパソコンを設置しており、このオフラインのパソコンに、ミャンマー国内の政治、経済、帰還に関わる情報を保存し、住民が閲覧できるようにしました。メラ難民キャンプでは2018年で延べ1,880人がパソコンを利用しました。</p> <p>③学校への移動図書箱活動</p> <p>メラ難民キャンプ内のすべての学校を対象に、図書館からの移動図書箱活動を実施しました。保育所、小・中・高等学校、障がい児特別学校の教員や学生が、絵本や学習参考書を選定するために図書館を訪れ、学校での利用を目的に希望の本を借りました。</p> <p>④図書館青年ボランティアによる読書推進活動</p> <p>メラ難民キャンプでは、40人の図書館青年ボランティアが活動しました。年に2回、人形劇を中心としたおはなし会を開催し、多くの子どもたちが参加しました。また、週末に、キャンプ内の各地区で絵本の読み聞かせ活動やゲーム、折り紙などを取り入れた読書クラブを実施しました。図書館から遠い場所に暮らす子どもたちにも読書の機会を届けることができました。</p>

### ソー・ポウ・トー・トーくん (11歳 メラ難民キャンプ図書館利用者)



僕の名前はソー・ポウ・トー・トーです。両親、2人の姉、妹と一緒に暮らしています。水を運んだり、家の掃除をしたり、服を畳んだりして、お手伝いをしています。空いた時間には、友達と遊んで、図書館に行っています。

図書館には週3回通っていて、図書館を通じて、僕は知識を得ることができます。特に、今手に持っている日本の絵本「いいことをしたぞう（偕成社）」が好きです。この本から友達に嘘をついてはいけないと学びました。

日本の皆さま、図書館を支えてくれて、本当にありがとうございます。僕は図書館に行って、知識を得る機会をもらっています。皆さまのご健康と幸せをいつも祈っています。